

課題研究以外の研究開発 1

教育課程の編成（外国語）

1 目的と期待される効果

(1) 目的

普通科の教育課程において、外国語（英語）に関する各科目の内容をグローバル・リーダー育成の目的で編成し直した学校設定教科「グローバルラーニング（GL）」の中に学校設定科目として設定することで、グローバルな社会課題について理解を深めるとともに、自己の考えを深化し、英語によるコミュニケーション能力を身に付ける。

(2) 期待される効果

英語の語彙を増やし、英語に対する関心と意欲を高めるとともに、探究心、表現力、コミュニケーション能力等が身に付くことが期待できる。

2 内容

次の①・②を学校設定科目として設定する。

- ① GLコミュニケーション英語（コミュニケーション英語Ⅰの代替）
- ② GL英語表現

3 実施方法

上記学校設定科目については、代替する科目の内容をグローバルな視点を重視して見直し、積極的にICT機器を活用して、アクティブ・ラーニングを取り入れて実施する。

「GLコミュニケーション英語」及び「GL英語表現」を普通科1～3年次において分割履修する。

4 検証評価方法

- (1) 普通科生徒及び保護者に対して「グローバル・リーダー」に関するアンケート調査を行う。1年後、2年後に同様のアンケート調査を実施し変容について分析する。
- (2) 実用英語技能検定やTOEFL、TOEICの受験及び目標レベル達成状況も検証する。調査結果はSGH運営指導協議会で検証し評価する。
- (3) 教員にもアンケート調査を4月及び年度末に行意識の変容について分析する。
- (4) 大学進学実績をこれまでのものと比較検討し、検証評価する。

5 実施内容

GLコミュニケーション英語

目標

グローバル化に対応して、英語を通じて言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養い、将来のグローバル・リーダーとして活躍できる能力と資質を養う。

＜内容の取扱い＞

- ① 必履修科目「コミュニケーション英語Ⅰ」を代替する科目として実施する。
- ② 指導に当たっては、「コミュニケーション英語Ⅰ」、「コミュニケーション英語Ⅱ」、「コミュニケーション英語Ⅲ」の内容等を参照し、内容を発展・拡充させ取り扱う。
- ③ グローバル・リーダーを育成する観点から、4つの領域の言語活動を有機的に関連付けつつ総合的に指導する。

（１）授業の概要

「GLコミュニケーション英語」の授業は、原則としてオールイングリッシュで展開している。他の科目も含めて、英語の授業における生徒の発話が半分以上である割合は90%である。また、ペアワークやグループワーク、ALTを交えてのディスカッション、ディベート等を取り入れ、課題となっている生徒の英語の話す・聞く力の向上に向けて取り組んでいる。

（２）授業展開例（課題研究を支える「GLコミュニケーション英語」の取組）

生徒がグラフ等を用いながら、英語でSGH課題研究を発表できるように、GLコミュニケーション英語でプレゼンテーションを実施した。活動では千葉県が千葉観光キャンペーンの一環として「千葉弁当」を販売することになったと仮定した。各グループが千葉県内の市町村職員になりきって、その市町村を紹介し、その地域の産物を用いた弁当の中身をグループで考案し、グラフ等のデータを用いながら提案した。

「GLコミュニケーション英語指導案」

- 1 実施時期 平成30年12月中旬
- 2 対象クラス 1年普通科（7クラス）
- 3 使用教材 教科書 *Revised ELEMENT English Communication I*（啓林館）
ワークシート
- 4 単元名 Lesson 8 The Power of Presentation
- 5 単元目標
 - （１）聴衆にとってわかりやすいように工夫しながら、グループでプレゼンテーションをする。
 - （２）グラフや図を用いながら、情報や自分たちの考えをグループで説明する。
 - （３）既存の知識を用いたり、文脈から推測したりしながら、東京オリンピック誘致のためのプレゼンテーションについての説明文を読む。
 - （４）仮定法の使い方を理解する。
- 6 本時の目標
 - （１）聴衆にとってわかりやすいように工夫しながら、グループでプレゼンテーションをする。
 - （２）グラフや図を用いながら、情報や自分達の考えを説明する。
- 7 単元全体の指導計画
 - （１）導入, Part 1（1時間）
 - （２）Part 2, 3, 4（3時間）
 - （３）Review, Retelling
 - （４）プレゼンテーション準備（3時間）
 - （５）プレゼンテーション1（1時間）
 - （６）プレゼンテーション2（1時間）本時

8 本時の指導展開

段階 (配当時間)	具体的な評価規準	学習内容・学習活動	指導上の留意点
導入 (5分)		・本日の活動、発表の順番、質問するグループを確認する。	・発表をするとき・聞くときの留意点を確認する。
展開 (40分)	・情報が的確で、根拠が示され、オリジナルの提案をしている(情報活用能力、思考力、創造的提案) ・効果的なプレゼンテーションができています。 (コミュニケーション能力) ・コミュニケーションに支障のない英語で発表ができています。(英語力)	・5グループがポスターを用いて発表する。 ・各発表の後、教員から指名されたグループが発表に関して質問する。	・発表時間が4分を超える場合には、発表を速やかに終わらせるよう指示する。 ・生徒が質問を理解できない場合には、パラフレーズするなどして支援する。
まとめ (5分)		・発表についてコメントする。	・発表について、良かった点、今後の改善点、生徒が使用した英語表現に対してフィードバックする。

10 評価

以下のルーブリックを用いて評価した。

評価項目	評価の観点	評価
Content 内容	Originality, Length, the Amount of Information, Persuasiveness	4 長さは3分以上で、聴衆を引きつけるイントロダクションで始まり、オリジナリティに富む。情報量は豊富で、根拠に基づいて説明されており、Chiba Bentoとして是非採用したいと思わせる説得力がある。
		3 長さは3分以上でオリジナリティは認められる。情報量は十分で、根拠が示され、Chiba Bento に採用したいと思わせる内容である。
		2 長さは2分以上だが、オリジナリティにやや欠ける。情報量はやや不十分で、Chiba Bento に採用したいと思わせるような根拠は不十分である。
		1 長さは2分未満で、オリジナリティに欠ける。情報量は不十分で、Chiba Bento に採用したいとは感じられない。
Cooperation	Cooperation	3 常に全員が協力して準備、発表に取り組み、役割を均等に担っている。
		2 時々、準備に協力していないメンバーがいる。発表の役割はやや不均等である。
		1 しばしば準備に協力していない人がおり、発表の役割は不均等である。
Delivery	Volume, Eye contact, Posture	4 声量は十分で、アイコンタクトをほとんど常にとっており、ビジュアル・エイドを効果的に使用しながら適切な姿勢で話している。
		3 声量はやや不十分だが、聞き取れる。アイコンタクトは大部分でとっており、ビジュアル・エイドを使用しながら適切な姿勢で話している。
		2 声量は不十分で、聞きにくい時がある。アイコンタクトはとっていないときが多く、姿勢は不適切な時がある。ビジュアル・エイドはほとんど使用していない。
		1 声量は不十分であり、聞こえない。アイコンタクトは全くとっていない、姿勢は不適切である。ビジュアル・エイドは使用していない。発表の長さが2分未満である。
English	Pronunciation, Grammar, Word choice	4 ほぼ常に発音・文法は正確で、語彙や表現の選択も適切である。
		3 まれに発音や文法に軽微な誤りがあるものの、コミュニケーションには支障はない。
		2 時々発音や文法に誤りがあり、一部コミュニケーションに支障をきたすことがある。発話量が著しく少ない。
		1 発音や文法に誤りが多く、コミュニケーションに支障がある、あるいは発表の長さが2分未満である。
Q&A		3 発表に対して適切な質問をしている。質問に対して適切に答えている。
		2 発表に対して質問をしている。質問に対して答えている。
		1 質問できていない。あるいは質問に対して答えられない。 0 質問できない。答えられない。

Performance Test (Group Presentation)

In Lesson 8, we learned the Power of Presentation, and how to make effective presentations. Now it's your turn to show the power of presentation.

Topic:

The Chiba Government has decided to sell "Chiba Bento" as the campaign to promote tourism in Chiba Prefecture. Chiba Bento will be sold at places which many people visit, such as Narita International Airport, Tokyo Disney Resort and La La Port. Chiba Bento will include food around Chiba. Now the Chiba Government asks cities and towns in Chiba Prefecture to suggest ideas.

Procedure:

The teachers decide groups of four people. Your group will choose a city or town in Chiba Prefecture. You will research the city/town and their products, and will think of an item for Chiba Bento.

**Content:**

Your presentation will be about **3 minutes**. *2分以下だと減点, 4分以上は発表の途中で止められます。

You need to

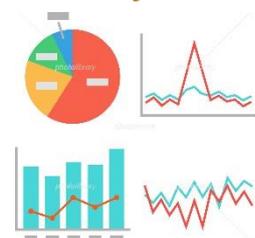
- ① introduce the city or town, and
- ② propose (an) item(s). (弁当の中身)

You need to show some **data** to support your proposal. 必ずデータとしてグラフや表をポスターに入れること。

グラフや表を示すときには "According to..." 等を用いてどこからのデータなのかきちんと示

**Visual Aids**

You will show a **poster** (模造紙半分サイズ, 手書き).

**Q&A**

The previous group will ask as many questions as possible within 2 minutes.

2分間で質問が出なければ, 質問できないグループは減点となり, 教員が質問します。

参考: 手始めに以下のサイトから調べ始めると良い

- ちばの農林水産物ランキング! (順位別) (千葉県庁ホームページ)

<https://www.pref.chiba.lg.jp/ryuhan/pbmgm/norin/juni.html>

*信頼できる情報源からデータは収集しよう。

以上の活動の他, Oxford Press Global Issues (グローバルな時事問題を扱ったリーダー) を副教材として採用し, 時事問題への興味喚起を図るとともに, 課題研究発表につながる語句・表現を学習する機会とした。加えて, 発表に向けて, 自作のワークシートを用いてグラフや図表を説明する表現を学習する機会を設けた。さらに, 海外研修でのディスカッションに向けて, 「話し合ったり, 意見の交換をしたりする (コミュニケーション英語 I の内容)」活動だけでなく, 「情報や考えについて, 話し合うなどして結論をまとめる (コミュニケーション英語 II の内容)」活動にも取り組んだ。

課題研究以外の研究開発 2

英語力、英語を用いてのコミュニケーション能力の育成

1 目的と期待される効果

(1) 目的

実用英語技能検定等の取得や海外の人との交流を通して英語力及び英語を用いてのコミュニケーション能力を身に付ける。

(2) 期待される効果

国際社会で活躍し、グローバル社会で通用するレベルの英語力が身に付くことが期待できる。

2 内容

(1) 実用英語技能検定（英検）や、TOEFL、TOEIC等の英語活用能力テストへの対策講座を展開する。英検2級は卒業までに全員、英検準1級は50%の取得をめざす。

(2) ネイティブの講師や課題研究の指導等で来校する留学生とのコミュニケーションの機会を増やす。

3 実施方法

(1) 英検の対策として課業期間の放課後や長期休業を利用した課外講座を開講する。TOEFLやTOEICについても講座を開講し、受験を促す。各自に取得目標と計画を立てさせる。

(2) 個別の会話だけでなく、グループミーティングやディスカッションを行う。海外での課題研究の発表を視野に、ミニプレゼンやインタビュー形式のものを実施する。

4 検証評価方法

(1) 検定の結果や目標の達成レベルを検証の指標とするとともに、海外での研究発表時の英語力に対する評価及び自己評価も分析する。

(2) 講師・留学生などによる評価や、アドバイスから改善を図る。

5 実施内容

(1) 英検対策課外講座

区分	内容
面接講座	一次を合格した生徒対象に、二次試験直前の一週間のうち放課後等を利用し、面接講座を実施した。個々に時間を設定し、英語科の教員、ALT、外部講師で指導にあたった。

平成30年度英語検定2級以上取得者数

項目	平成30年度			平成29年度		
	2級	準1級	1級	2級	準1級	1級
2級以上取得者数	315	11	1	239	8	0
取得者／在籍	33.6%			25.2%		

(2) 英語を用いたコミュニケーションの機会

ア オランダの高校生との交流

(ア) 日 時 平成30年5月2日(水)

(イ) 場 所 本校

(ウ) 参加者 ドラードカレッジ生徒(5名)及び本校生徒

(エ) 内 容 展示室等英語で案内, 英語の授業での交流, 書道体験及び交流

イ マレーシアの高校生との交流

(ア) 日 時 平成30年12月10日(月) 午前11時~午後4時30分

(イ) 場 所 地域交流施設

(ウ) 参加者 KOLEJ ISLAM SULTAN ALAM SHAH(35名), 同校教員3名, 本校1年G組(40名), 2年G組(40名)

(エ) 内 容 学校紹介, 展示室等見学, 1年G組との昼食交流及び授業(GLコミュニケーション英語:英語で日本文化(折り紙, 書道, 紙相撲, よさこいソーラン)の紹介), 2年G組との授業(GLコミュニケーション英語:マレーシアと日本の文化の違いについてディスカッション)及び交流



6 成果と課題

(1) 英検対策課外講座

昨年度の1年生から, 英検2級を必ず1回は受検することとした。英検対策課外講座については, 面接指導を重視し, ALTや外部からの講師も指導に加わった。平成29年度は, 英検2級以上の取得者総数は, 247名であったが, 平成30年度は1月末現在で327名である。2級取得者数が確実に増えているので今後も対策講座を充実させる。

なお, 3年生は, 英検I B A 2級以上相当の生徒は, 267名であり, 全体の83.2%である。

今後は, 英語科教員の負担が大きくなるように, 外部人材の活用を進めたい。

(2) 英語を用いたコミュニケーションの機会

本校がオランダ派遣において交流しているドラードカレッジの生徒と, マレーシアのKOLEJ ISLAM SULTAN ALAM SHAHの生徒との交流を行った。成果については, 生徒が英語を主体的に活用し, 英語力を高める契機となっており, 有効である。

課題研究以外の研究開発 3

地域や同窓会との連携

1 目的と期待される効果

(1) 目的

地域や同窓会（鹿山会）の組織の中で、グローバルな社会課題の解決に向け活動している団体や支部との繋がりを活かし、グローバル社会の現状や課題について講義や講演を受けることで、グローバルな社会課題について理解するとともに課題を実感し現実的に捉える。

(2) 期待される効果

多文化共生社会を構築できる人材としての基礎を身に付けることが期待できる。

2 内容

(1) 佐倉日蘭協会の協力を得てオランダから日本に来ている留学生と交流する機会や、本校の同窓会のN A Aグループ鹿山会（成田空港関連会社に係る同窓会支部）の協力を得て国際線の外国人機長やC A等と交流する機会を設け、現在のオランダをはじめとしたヨーロッパの経済や国際情勢等について講義や講話を受ける。

(2) 同窓生のなかでも、まだ若手でありながら、地元佐倉の意識が強く、各分野（建築、法曹、T V関係等）の第一線で活躍する、国際経験の豊富な方々からも講話を受け、身近に世界の情報・動向を把握する。

3 実施方法

オランダ派遣やイギリス、ドイツ、シンガポール、オーストラリア研修の実施前に、講演者から世界各国の情勢についてレクチャーを受ける。

4 検証評価方法

研修に参加した生徒やその保護者に対して、記名式4択式アンケートを実施し、その結果と講演者からの評価をもとに検証する。

5 実施内容

(1) 同窓会との連携

ア 日 時 平成31年1月11日（金）

イ 場 所 本校地域交流施設

ウ 目 的 ドイツ及びデュッセルドルフなどに関する情報を得ることにより、ドイツに関する知識を深める。

エ 対 象 2年生S G Hドイツ海外研修参加者（11名）

オ 講 師 寒郡 茂樹氏（本校同窓会副会長）

カ テーマ 「佐倉高校生デュッセルドルフ市訪問に向けて」

キ 内 容 ビジネスでドイツ各地、特にデュッセルドルフ市に度々訪問し造詣の深い寒郡氏より、ドイツ人気質や文化、街の様子、商業における見本市の役割、千葉県とデュッセルドルフ市のつながりなどについてお話しいただいた。また、生徒の課題研究に関連した質問にも丁寧に答えていただいた。グローバル人材として、語学力ももちろんであるが、様々なことにチャレンジし経験を積んで実

務能力を備えていくこと、異文化への理解と共に、自国の文化を深く理解し発信できることが大事だという激励の言葉をいただいた。

(2) 地域との連携

ア 地域の小学校との連携

「Peace Keeping Project ～若い世代と共に平和について考えよう～」を研究テーマとしたグループ（2年）が、研究の一環として平和学習に係る模擬授業を地域の小学校で実施した。また、「皆が安全に暮らせる環境作りとは～点字ブロックを通して福祉を見る～」をテーマとしたグループ（2年）が、研究の一環として共生社会の実現を目指した福祉教育に係る模擬授業を行った。

(ア) 「Peace Keeping Project ～若い世代と共に平和について考えよう～」

佐倉市立間野台小学校（1時間）、佐倉市立佐倉小学校（3時間）

(イ) 「皆が安全に暮らせる環境作りとは～点字ブロックを通して福祉を見る～」

佐倉市立内郷小学校（1時間）

イ 佐倉市役所との連携

「佐倉市総合計画策定のための高校生によるまちづくりワークショップ」（詳細は、研究開発2に記述）



6 成果と課題

同窓会との連携については、昨年に引き続きドイツに係る講演をしていただいた。生徒は、異文化を理解すること、グローバル社会の課題、グローバル社会での自己の在り方などについて考えを深めることができた。他に、海外研修に参加する生徒に対して成田空港に勤務している方（NAAグループ鹿山会）から講話を行っていただいたり、ゆるスポーツを研究しているグループ（1年）の支援をいただいたりしている。

地域との連携については、昨年に引き続き、佐倉市内の小学校で生徒が模擬授業を行った。生徒は、グローバルな課題の解決には地域の教育が不可欠であることを改めて認識していた。また、佐倉市役所と連携して課題研究に係るワークショップに生徒が参加したり、外国人向けの菓子の開発を行ったグループが考案した和菓子の販売を地域の和菓子店に協力していただいたりするなど地域の力を活用している。これらは、生徒にとって自己の研究が地域の課題解決に生かされていることを実感できる活動となっている。